

## 日本臨床外科学会 国内外科研修報告

### 相良病院での研修を終えて

奈良県立医科大学消化器総合外科

田中 幸美

研修期間 令和2年10月26日～11月7日

この度日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにより、乳腺外科研修を相良病院でさせていただきました。COVID-19で感染対策に注意しながら受け入れていただき、まず相良病院理事長 相良吉昭先生、院長 相良安昭先生をはじめとした先生方、対応していただきました看護師、スタッフさま方にお礼申し上げます。また貴重な機会を与えていただいた日本臨床外科学会にもお礼申し上げます。

今回、鹿児島にある相良病院にて研修させていただき、まず病院の綺麗さや受付さんのホスピタリティに驚きました。改装されたのは知っていましたが、場所をしっかりと調べておかないと病院とは気づかず通りすぎてしまうほどでした。通路も間接照明などで優しく、受付さんの制服を見ても病院にきたというよりホテルにきたような雰囲気でした。検診などにきた患者さんの気分になってみるとやはり検診は面倒なものですし、病院に行くというだけでも気が重いものですが、こういった雰囲気であればより行きやすいのではないかと思います。通院される乳がん患者さんも治療が大変でも少しでも過ごしやすくなったことが助けになることもあると思います。今回はCOVID-19の影響でカドルハウス(11階にある無料のスペース。患者さん同士で交流したり医療関係者と相談できたりライブラリーを利用できる場所)での交流会などは開かれていませんでしたが、そういった場所があり話をできる環境が整えられていることが素晴らしいと思いました。その他にもアピアランスセンター(外見ケアを中心にウィッグや爪などのケアの商品などが揃っているところ)やリンパ浮腫を指導するリハビリ室など見学させていただきました。どの部門も関係者全員が患者さんの困っていることを考慮して個々に対応しながら説明を行っており、頭がさがる思いでした。

乳腺外科の先生方はカンファレンスでは非常に熱い議論を交わっていて最初は驚きましたが、一人ひとりの先生方がエビデンスを持って話されており勉強になりました。自施設ではまだ保険診療での乳房の予防切除症例はなかったのですが、参加できたカンファレンスの中で片側乳がんがあり同时对側の予防切除を行い再建する症例があがっており乳癌診療もここまでできたのだと実感しました。手術にも入らせていただき、先生方のそれぞれの手術をみることができました。なかなか自施設だけではその施設のやり方に慣れきってしまっているところもあり、ここまで乳腺外科の先生がいる施設もないため色々なやり方を見られて楽しみながら手術ができました。特に部分切除術でのsuture scaffold法は簡便ですが、充填の難しい欠損でも乳房の形が保たれるということで自分でも真似したいと思っています。

研修の最終日に、合同倫理カンファレンスにて「重篤な病気を持つ患者のケアのプログラムの紹介と概要」について京都大学大学院医学研究科人間健康科 竹之内沙弥香先生のお話を聴講でき非常に勉強になりました。当科でもアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の啓発を行っていきたいと考えていましたが、まだまだ手探り状態であり、取り掛かりから躓いていました。しかし講義では院内でツールを作って推進する方法やあまりACPについて興味がない医師にどうやって知ってもらうかなど様々なエッセンスを教えていただき今後の助けとしたいと思っています。

相良病院では皆さん非常に親切で雰囲気がとても良く、2週間楽しく勉強して過ごせました。自施設では消化器総合外科というところもあり、乳がん診療を一丸となって行うというよりは総合外科の一分

野をこなすという感じで、もっと良くならないかと悩むことが多かったのですが、相良病院の先生に、でもうちでも改善するところがまだあるよ。と言われ驚きました。見学しただけだと全く悪いところが見つからないけれど、良い雰囲気で作る気のあるスタッフがいれば更に改善して良い循環をしていけるのだと感じました。貴重な機会をいただき、少しでも患者さんがより良い環境、より良い医療を受けることができるように今後も精進していこうと思います。教えてくださった先生方、看護師さん、スタッフのみなさん、ありがとうございました。